

第10回 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会

相談支援部会からの報告

2022年9月2日(金) 14:00-17:00

Web開催

1

第8回 関東甲信越ブロック小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

日時:2021年10月7日(木) 15:00~17:00 (Web開催)

出席者:53名(4拠点病院+32連携病院+1団体)

議事

1. 開会挨拶 国立成育医療研究センター 小児がんセンター 血液腫瘍科 富澤 大輔
2. 関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会規程と相談支援部会細則について(事前配信)
国立成育医療研究センター 小児がん相談支援センター 鈴木 彩
3. 第13回・第14回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告(事前配信)
国立成育医療研究センター 小児がん相談支援センター 鈴木 彩
4. 関東甲信越ブロック 小児がん相談支援研修報告
東京都立小児総合医療センター 子ども家族支援部門 井上 紀子
5. 埼玉県立小児医療センターにおける妊孕性温存治療に対する取り組み
埼玉県立小児医療センター 血液・腫瘍科 本田 護
6. 妊孕性温存治療を受ける患者家族に対する支援
埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター 篠崎 咲子
7. 関東甲信越地域 妊孕性温存治療費用助成制度実態調査
神奈川県立こども医療センター 小児がん相談支援室 大倉 貴和
8. 意見交換 「妊孕性温存治療に関する相談支援について-相談員が取り組むべきこと-」
9. 事務連絡

2

第9回 関東甲信越ブロック小児がん医療提供体制協議会 相談支援部会

日時:2022年7月8日(金)15:00~17:00(Web開催)

出席者:46名(4拠点病院+32連携病院+1団体)

議事

1. 開会挨拶 国立成育医療研究センター 小児がんセンター 血液腫瘍科 富澤 大輔
2. 第15回・第16回小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会報告
3. ブロックにおける拠点病院・連携病院の相談支援体制整備について
4. 事前アンケート結果報告
5. 意見交換会
(1)各都県でのネットワーク作り

(2)事例検討
6. 事務連絡

関東甲信越ブロック 小児がん相談支援研修

「がんの子どもへの教育支援における連携のあり方を考える」

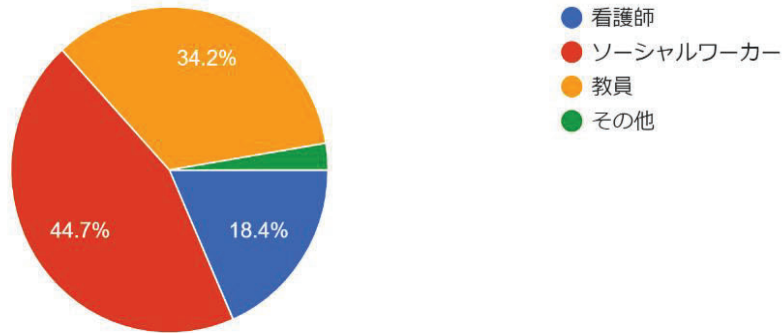
2021年8月29日(日) 13:00-16:30

13:05	講演① 「教育支援における相談員の役割」 東京都立小児総合医療センター ソーシャルワーカー 井上 紀子
13:35	「相談員が行う入院から退院までの支援 ～仮想事例を通して～」 埼玉県立小児医療センター ソーシャルワーカー 篠崎 咲子 グループディスカッション①(職種別グループ) テーマ「所属施設の現状・課題について」
14:05	講演② 「教育の立場からみた相談員との連携について」 埼玉県立けやき特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 竹村 由香理
14:55	グループディスカッション②(教育体制別グループ) テーマ「具体的な連携についてのディスカッション」
15:30	休憩
15:40	全体発表
16:25	講評
16:30	終了

アンケート結果

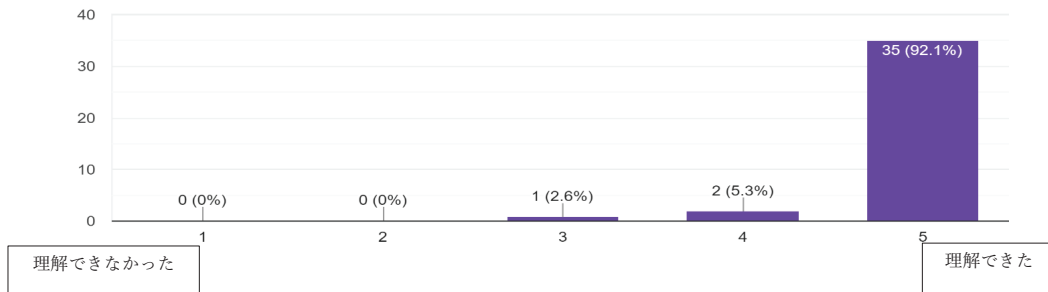
申込者:47名 受講者:43名 回答者:38名

38件の回答



1. 講義の内容について

38件の回答



2. 一番印象に残ったことを教えてください(一部抜粋)

- ・グループワークで他院の状況の話をしることができた。この時期でなかなか他院の話の聞ける機会も少ないため、貴重な時間となった。
- ・地域の学校教員が、入院中の生徒のことを気にかけて、連携の仕方に興味関心を持っていただいていたことに感動した。
- ・院内での連携体制を構築することの重要性を理解できた。
- ・それぞれの立場の悩みがあることが具体的に知ることができた
- ・他県の取り組みを知ることで、改めて支援体制作りの重要性を感じました。今後の業務遂行するにあたり、モチベーションアップにつながりました。
- ・それぞれの医療機関の体制によって、小児がんの全ケースにSWが介入するところもあれば、必要時にSWが介入するところもあり、同じSWでも役割や業務が違うことに気づけました。
- ・支援体制の重要性。そのためには、各機関との円滑なコミュニケーションが大切。改めてそれを感じました。
- ・原籍校とのつながりを大切にするという視点を大事にしなければいけないということ

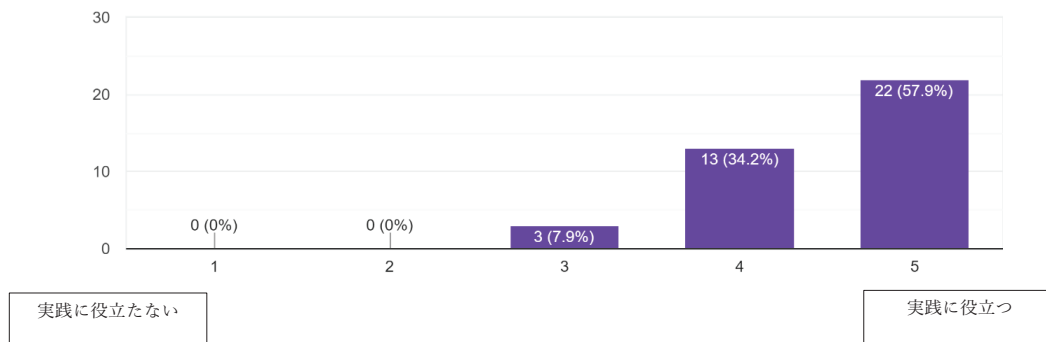
3.理解しにくかったこと・難しかったことを教えてください (一部抜粋)

- ・課題の具体的な解決方法に関して話合うには時間の関係上難しかった。(現状の共有で時間が取られた)
- ・小児がんはまだかかわりが無いのでこれから勉強していきたい
- ・人事異動で、継続できる支援。学校によっての違い。
- ・県や病院の考え方、成人と小児とのギャップ、理解によって体制やシステムに差が生じていること
- ・学習環境の調整を当院でどうやっていけるか。
- ・とても分かりやすい内容だったが、院内に特別支援学校があったり、小児専門病院の事例なので、**3**次救急病院にとっては、どこまでを求められるのかが問題。
- ・病院や地域の学校での基本体制がわかるとよかった
- ・教育側もいろいろな形があったので立場の違いを基にした話し合いが難しかった
- ・教員も医療従事者も人の入れ替わりや世代交代がある中で、子供に寄り添う視点を優先させられる人材の育成の方法について。

7

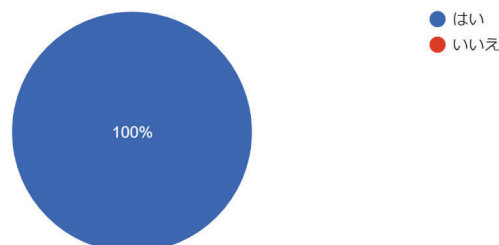
4.実践に活かそうな内容でしたか

38件の回答



5. 自施設で取り組みそうなことはありましたか

38件の回答



8

6. 取り組みそうなことの内容を教えてください(一部抜粋)

- ・もっと積極的に他職種とコミュニケーションを取っていこうと思いました。
- ・多職種との情報共有と発信する努力
- ・学校間での協力を今後も継続していきたい
- ・教育のセンター的機能を理解していただく機会になったこと。ケースにもよりますが、今後はより学校関係の相談を病院と連携とり進めていきたい。
- ・連携を強化するために、院内で行きあった時などに、声を掛け合ったり情報交換するなど日頃からのコミュニケーションをたいせつにすること。
- ・自施設院内学級の先生も参加された為、今後の連携の図り方を再検討しようということにつながった
- ・これから復学支援会議を行なう予定のため、参考になった。
- ・更なる関係機関との円滑な連携。日頃の密なコミュニケーションの大切さ。
- ・関係機関との連携体制の構築。人が変わっても、その在り方は、継続されるように。
- ・他校での前例があることを、自校の管理職に伝え、自校の運営に活かす。例;退院後の遠隔授業、一時退院中の遠隔授業等

9

2022年度 関東甲信越ブロック
小児がん相談支援研修会

小児がん終末期をお家で過ごす秘訣
その子らしく過ごすために

2022年11月5日(土)
第1部 13:00-14:40
第2部 14:50-16:30

対象

第1部 ※定員なし
小児がん拠点病院・連携病院や在宅診療所等にて小児がん患者家族に携わる医療従事者

第2部 ※定員50名(応募者多数の場合は人数を調整させていただきます。)
小児がん拠点病院・連携病院の相談支援に携わる相談員とそれらの医療機関と連携している在宅診療所等の相談員

内容

第1部 (講演Iは事前配信)

講演1「小児がん患者の在宅療養 ―その子らしく過ごすために―」

講師:医療法人財団はるかか会 あおぞら診療所せたがや副院長

国立成育医療研究センター 小児がんセンター 大隅 朋生

講演2「小児がん患者の退院支援と在宅医療との連携のポイント」

講師:小児がん拠点病院相談員

講演3「医療機関と在宅診療所の相談員の連携について」

講師:医療法人財団はるかか会 あおぞら診療所せたがや

ソーシャルワーカー 池田 有美

小児がん拠点病院相談員

第2部 グループディスカッション

「その子らしく過ごすために、私たちができること」

開催方法

オンライン

(Zoomミーティング)

申込方法

以下のQRコードからお申し込みください。



申込締切日

9月30日(金)まで